

自己実現への道

第98回 - 第8章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その2)

★ 人の茶碗を満たす喜びこそ生き甲斐の根源

私達が歩みつづけ、また、成長し続けようとするのは、何が動機なのか？

何が私達を成功者が陥る慢心から守ってくれるのか？

一生の間、来る日も来る日もやる気を持続させてくれる原動力は一体何なのか？

創造的なもの、生産的なものをたえず求めてやまない欲求を持続し培養する力の源泉はどこにあるのか？ **答えはひとつしかない。** 自分本位の楽しみではなく、人類のニーズに焦点をあわせることにある。

自分の労働の成果を、飢えた人がおいしそうに、食べている姿を見ると、農夫は畑に戻って新しい生産に取り組まなければ、来年は人々を飢えさせ、子供たちを餓死させることになりかねないぞ、と覚悟を新たにす。この心意気が農夫を毎年毎年、生産に駆り立てる源泉なのである。そして彼は、今でも現役で働き続けている。

人の茶碗を満たすこと、世のため人のためになることこそ生き甲斐の根源である。利己主義、身勝手は最後に自滅する。これが人生のゆるがない原理である。他の人々への奉仕に傾倒するライフスタイルは、充実感に溢れ、豊かな精神の世界に私達を導いてくれる。

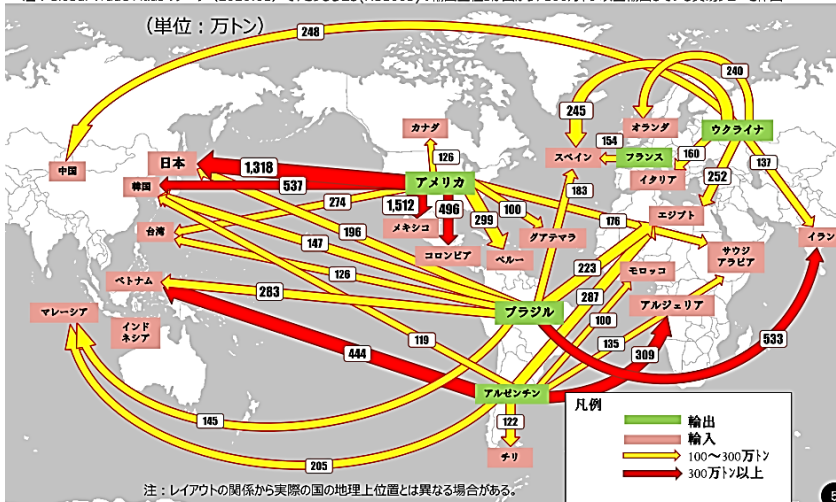
意義ある人生を生きるということは、人の茶碗を満たすこと、世のため人のためになることに、焦点をあてるということである。このような生き方をしていれば、あの、人間をしばしば襲う、うつろな不安感に苛まれることはない。

生きている限り、励ましを必要としている人々を探し求め、世のため人のためになることを願って前進したいものである。アフリカの4億5千万人の半分は飢えているのに、アフリカへ輸入される食糧は年に1300万トンしかない。お金がないからである。日本人は年に5500万トンの穀物を輸入し、年間総消費量は国内生産分と合わせて8500万トンである。しかし、その1700万トンが捨てられ、牛や豚の飼料となっている。

5 とうもろこしの需給動向と貿易フローの変化：2017年とうもろこし貿易フロー図

2017年（前後3か年平均）の輸出は、米国が34%で首位もシェアが減少、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナが上位に。輸入量シェアはEUが13%で、次いで日本とメキシコが1.1%。輸出国だった中国が輸入国に転じて、アジア・中東・北アフリカの輸入が増加。

注：Global Trade Atlasのデータ（2020.01）で、とうもろこし(HS1005)の輸出上位5か国から、100万トン以上輸出している貿易フローを作図



年間は年に1300万トンしかない。お金がないからである。日本人は年に5500万トンの穀物を輸入し、年間総消費量は国内生産分と合わせて8500万トンである。しかし、その1700万トンが捨てられ、牛や豚の飼料となっている。お金の力で、全世界の資源をかき集めている日本人よ。私たちの幸せのために犠牲になっている第三世界の人々に眼を向けたまえ。

〈MIKO〉

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より